



日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

95.9.22 No. 4263

正念場！物合理化との闘い！ むかえた員物合理化

次期ダイ改から開始されようとする合理化・基地統廃合攻撃！

分割・民営化一〇年目をまえにして、その矛盾がもつとも集中するJR貨物は、「中長期計画(フレイト二一)」を策定し、貨物大合理化につき進もうとしている。

とりわけ「中長期計画」の第一段階として、当初三年間を「緊急三カ年」として、五〇才以上を対象に、早期退職制度をつくらせるとともに、徹底した合理化と基地(乗務員・検修・車両)の統廃合を、次期ダイ改から開始しようとしている。

いよいよ正念場をむかえた貨物合理化との闘いを、全組合員のものとして闘いにたちあがるう！

鉄道部門七千人体制を許すな！

「中長期計画」では、十年間で鉄道部門七千人体制にすることをかかげている。

現行の一万一千人から比べると、実に四千人の要員合理化を行なおうというのである。

しかもこの四千人とは、この十年間のうちに五十五才に到達する人数だといふのである。

求められる六〇才まで安心して働ける労働条件の確立！

業務まるごとの出向を除けば、いまでさえ東京都心部以外に出向先がほとんど確保できていないなかで、これでは五十五才退

職制度となんらかわりはない。

六十才まで安心して働くことのできる労働条件の確立が、今ほど求められている時はない。

職場を覆う分割・民営化のツケ

さらにこれは、職場にとつては慢性的な要員不足を生みだしている。検修職場では、「基準人員どおりのところはない」といわれている。要員不足と技術段差の発生、こうした分割・民営化のツケともいえるものが、いま職場を覆いつくそうとしているのである。

本格的な乗務員基地統廃合攻撃

貨物会社は、こうしたツケを職場の統廃合でのりきろうとしている。営業・運転・保安(施設・電気)を一つの職場にした「総合鉄道部」を全国に展開している。

また乗務員は、乗務効率の拡大をねらって、乗務員基地の統廃合を本格的に始めようとしている。われわれは、こうした「去るも地獄、残るも地獄」という貨物合理化を粉砕しなければならぬ。

次期ダイ改で京葉線乗り入れ

開始し直結する基地の見直し！

貨物会社は、今年度の経営計画のなかで、「京葉線への乗り入れ」への着手を明らかにし、九月には関東支社内に、「京葉線対策室」を発足させ、JR東日本や沿線自治体との協議を開始した。

そして次期ダイ改(九七年春といわれている)には、「京葉線乗り入れ」を開始するとしている。これは単に新小岩の蘇我移転にとどまらず、現存の貨物ルートの大規模な変更を伴うものである。基地の見直しに直結する。すでに新茂原や千葉貨物ターミナルでの貨物営業の廃止などのウワサがとびかっている。

九七年春とは、先の「緊急三

九月一九日御宿町議選告示！

親戚、友人、知人、組合員五〇人が集まり、盛大に行なわれた中村候補出陣式！「はばたこう運動」をさらに飛躍させよう！

九月一九日、御宿町議選が告示され、当日、朝十時より、中村候補自宅にて、出陣式が行なわれた。

出陣式は、選挙責任者のあいさつに続き、中村俊六郎候補が参加した親戚、友人、知人、組合員の五〇名の前で、敢然と町議選に起った決意と選挙公約を披露した。

その要旨は以下のとおりでした。

①、御宿町民の立場に立った、開かれた町政を目指して、頑張るう！

第二二二回動労千葉定期大会

日時 九五年一〇月一日(日)一三時より

一〇月二日(月)一二時まで

場所 千葉県いしの里「笠森保養センター」

「JRの再編」攻撃と闘おう！

貨物大合理化、さらには、「一〇年目の見直し」JRの再編攻撃と対決して闘い抜こう！
今次定期大会をその出発点として、全組合員の意志統一を勝ちとろう！

りたいと思います。

②、御宿の海と川、自然を守るために奮闘したい。海が死んでしまつたら、御宿もダメになつてしまいます。

③、残された五日間全力で選挙戦を闘い抜きます。

そして親戚代表があいさつ、カンパイを行なったあと、宣伝車をすいして、御宿町を席巻する選挙戦へと出陣した。

船橋・勝浦に続く、中村御宿町議員選挙闘争の勝利を勝ちとろう！